

巻頭言

コストを見直し、 サステナブルな会社に

全国グラビア協同組合連合会
会長 田口 薫



全国グラビア協同組合連合会組合員の皆様、日頃の連合会の活動にご協力賜り誠にありがとうございます。

さて、またいつものように価格問題について申し上げたいと思います。ここ20年以上にわたり原料や諸経費は値上がりが続いています。しかし、私共の加工賃は転嫁が進んでいません。何故か？ 業者数が多く過当競争になっていたのは過去の話です。人手不足、労働時間の制約に加え、社員のストレスチェックなど企業の負担が大きくなりました。昔は最大手の厳しい仕事振り、ノルマ主義は相当のもので、夜討ち朝駆けは当たり前。しかし、今は夜7時以降は事務所の灯も消える有様。そして夏休み12日間、有休消化の義務付け、さらに陥没価格修正のために30%値上げ、それも受けられるか否かを半月以内に決めることを強く要望する。そして、これを貫徹し、生産量が落ちてても却って工場利益が増えるなど、万事様変わりしてしまいました。原料値上げも最大手から決まって、中小が続く。まるで嘘のような話ですが本当の話です。

9月放映のテレビ番組「カンブリア宮殿」で紹介されたTOPPANさんの好調振り、印刷業界の売上が軒並みダウンする中、2000億円も売上を増やしているその秘密は他社と一味違った建材、包材の開発にあります。TOPPANホールディングスの麿 秀晴社長自ら不眠不休で開発した「GLフィルム」は欧州、米国でも生産され、日本の優れた軟包装技術で高収益を上げ、英国でもコンバーターを買収し、チェコでは約150億円をかけて新工場の建設が進んでいます。日本で低収益の製品を作る必要は全くありません。大幅な値上げの結果、ユーザー離れは起きていません。麿社長は軟包装部門の経営利益目標8%を発表されました。もちろん、仕入れのコストカットはせず、パートナーシップ構築宣言を堅く守られ

ています。外注加工費の再交渉の希望があれば受け、さらに独立した相談窓口を設け、業者側に不利益をもたらさないことを確約されました。我々の耳目を疑うようなことです。

一方のDNPさんも強気の値上げ方針を貫いておられます。DNPさんは非印刷部門、電子部材やリチウムイオン電池のパック等で高収益を上げ、低収益の軟包装に頼る必要は全くありません。4年前から北島義斉社長は儲からないものを無理してやらなくても良いと明言されています。

いかがでしょうか。それでも無理して安値でガンバリますか？ 社員がついて来ますか？ 5月に倒産された老舗企業は以前から安給料で知られ、社員が減り、外注を5社も使って生産を維持されましたが、外注加工賃の逆ざやが積もって、やりくりがつかなくなって倒れてしまいました。

業界全体のグラビア印刷機の新台は年15~18台です。グラビアインキメーカーも1社減りました。早く体勢を立て直さないと大変です。こうした情報は組合員だからこそ、入手できます。アウトサイダーは、お客先のおっしゃる通りに安値受注・安売りをしても、その経営は継続できません。30年間給与を上げずに頑張った結果が今の業界です。欧米の同業は経営利益10%が常識です。10%の利益があって初めて人員募集、人材育成、設備更新が可能となります。15年前、全米印刷工業会のマイケル・マーキン会長は「利益10%が常識。日本は安すぎだ」と喝破しました。亡き稲盛和夫さんも同様に言われています。日本では「お客様は神様です」のようなフレーズで安く提供することが美徳とされましたが、これは高度成長期に需要が伸びて大量生産によって採算が取れた頃の話です。今のように多品種少量生産になれば全く違います。少ロットの原価計算を確立しましょう。この30年、日本人の弱点が今の状況を生んだのです。もう人を安く働かせることはできません。外国人実習生の賃金は日本人よりむしろ高いと思います。監理団体への支払いや寮設備など、経費も掛かります。製品安全性、環境の劣化を防ぐ、コンプライアンスコストもあります。もう一度、コストを見直し、企業の継続性を図り、サステナブルな会社になるしか道はありません。

この文章はアウトサイダーの方々にも読んでいただきたいと思います。そして、組合も勘違いしたままではいけません。

全グラの前・専務理事、村田英雄氏が逝去 業界発展、ソフトパッケージ普及に尽力

全国グラビア協同組合連合会の前専務理事・情報担当顧問を務められた村田英雄氏が2023年10月5日（木）正午頃、逝去されました。76歳でした。

村田氏は1946年10月14日生。1983年、マルチグラビア印刷㈱の代表取締役就任と同時に関東プラスチック印刷協同組合の理事に、1990年に専務理事に就任されました。その後、4代の理事長を補佐しつつ、（一社）日本印刷産業連合会、東京都印刷産業団体協議会の各種委員会にて活躍され、30年以上に亘り、組合役員を務められました。

2008年からは関東グラビア協同組合、全国グラビア協同組合連合会の専務理事として事務局業務

に励み、業界発展のために尽力、食の安全・安心を担うソフトパッケージの普及と社会的認知に努められた功績が称えられ、「2023印刷の月 印刷文化典」において「印刷功労賞」を授与されました。

10月7日（土）、8日（日）に、東京都墨田区のオリハラ中央博全社（東京都墨田区横川3-13-10）において通夜、告別式が営まれました。たくさんの方々の供花に囲まれ、ご家族や親交のあった多くの方々も参列し、別れを惜しまれました。



GP JAPAN

全グラ情報

2023
11
No.276
全国グラビア協同組合連合会

CONTENTS

巻頭言 コストを見直し、サステナブルな会社に …………… 1

全国グラビア協同組合連合会 会長 田口 薫

全グラコーナー

全グラの前・専務理事、村田英雄氏が逝去
業界発展、ソフトパッケージ普及に尽力…………… 3

2023GP 環境大賞等表彰式、GP マーク普及大賞・準大賞に
北四国グラビア印刷と巧芸社が2年連続受賞 …………… 6

組合員・単組の近況

九州グラビア協同組合青年部 研修旅行
大日精化・坂東製造事業所見学、JAPAN PACK 2023視察へ…………… 10

関東グラビア協同組合青年部
レゾナック川崎事業所KPR 視察報告 …………… 12
報告者：関東グラビア協同組合青年部 大伸化学(株) 吉田 巧

関西グラビア協同組合・青年部 第17回経営セミナー報告 …… 14
報告者：関西グラビア協同組合青年部 エバーコート(株) 三島 徹

関東グラビア協同組合 定例理事会報告…………… 16
軟包装「ソフトパッケージ」が果たす役割について社会浸透を
2024年の全グラ総会は6月に九州でリアル開催

関西グラビア協同組合青年部 工場見学会報告…………… 17
報告者：関西グラビア協同組合青年部 淀川加工印刷(株) 有田英明

北陸グラビア協同組合 特別懇話会を開催…………… 20

北海サンコーの若狭吉範氏が逝去
北海道グラビア印刷協組理事長などを歴任…………… 21

目立ってしまいますが、実力もすごいのです…………… 22

今月の表紙

各単組の活動報告が続々と。
写真上段：10月17日に全グラの田口会長を招いて特別懇話会を開催した北陸グラビア協組（左）、10月4日～6日に大日精化工業㈱坂東製造事業所・JAPAN PACK 2023視察を行った九州グラビア協組青年部、写真中段：10月6日に㈱レゾナック川崎事業所を視察した関東グラビア協組青年部（左）、10月3日に丸山印刷㈱本社工場を見学した関西グラビア協組青年部、写真下段：10月11日に第17回経営セミナーを開催した関西グラビア協組・青年部（詳細は本文10～20頁参照）



WE LOVE GRAVURE

Data Watch 2023年7月データ 24

紙・板紙／不織布／粘着テープ・シート類／プラスチックフィルム・シート／インキ／
ポリプロピレンフィルム／印刷加工機械／印刷機械輸出入／アルミ箔／ポリオレフィンフィルム

紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2023年8月データ ... 30

GP 認定制度申請についてのお願い 34

GP 工場認定制度無料説明会のご案内 36

**(一社) 日本印刷学会 技術委員会 グラビア印刷技術研究会
グラビア研究会 第14回ミニシンポジウム「環境対応パッケージをデザインする」開催** 38

11月は「しわ寄せ」防止キャンペーン月間です。 40

**日本商工会議所・日本科学技術連盟
品質月間特別講演会を11月27日まで開催中** 42

最低賃金引き上げを受けて賃上げに取り組む皆様へ 45

Information

大日精化工業、新ブランドメッセージ「彩りの、その先へ。」を発表 20

信和産業、村野 剛氏が社長就任 43

GPJAPAN は全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会
e-mail:zenkoku-grv@utopia.ocn.ne.jp
http://www.gcaj.or.jp/
までご連絡下さい。

本文ページの紙は、無塩素漂白パルプから作られたものを使用しています。

発行：2023年11月10日
発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）
発行所：全国グラビア協同組合連合会
〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9
あさひ墨田ビル
TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814
編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）
渡邊富美子、酒井由香（同事務局）
編集協力：(株)加工技術研究会
印刷：(株)遊文舎

© 全国グラビア協同組合連合会2023

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

2023GP 環境大賞等表彰式

GP マーク普及大賞・準大賞に 北四国グラビア印刷と巧芸社が2年連続受賞

(一社)日本印刷産業連合会(日印産連)は、2023年10月18日(水)午後3時30分より、東京・DNP佐内町ビル・ホールにおいて「GP(グリーンプリンティング)環境大賞等表彰式」を執り行いました。全グラからは2年連続で、GPマーク普及大賞グラビア・シール・スクリーン部門大賞で(株)北四国グラビア印刷が、準大賞では(株)巧芸社が受賞し、北四国グラビア印刷の奥田拓己社長と巧芸社福岡営業部の田中宏一郎次長に表彰状が手渡されました。表彰式終了後の午後5時より、小山薫堂GPPR大使とゲストを迎えた「印刷と私」トークショーが開催されましたが、その模様は次号で紹介します。

GP環境大賞は日本航空、あわしま堂など

表彰式の冒頭、日印産連の堆 誠一郎副会長は次のような挨拶を述べました。

「2001年に印刷業界団体が主導して、環境自主基準『印刷サービスグリーン基準』を制定。この基準を達成した印刷工場、印刷製品、印刷資機材を証明、認定する『GP認定制度』は2006年にスタートして今年で18年目になり、現在までに444工場が認定されています。また、2015年には『GP環境大賞』を創設しました。その後、GPマーク普及に積極的な工場を表彰する『GPマーク普及大賞』とGP資機材認定製品を提供するメーカーを表彰する『GP資機材環境大賞』が加わり、本日は28の企業・団体を表彰します。

環境に配慮した印刷工場について一層の認知と普及を図るため、GP PR大使も創設し、初代大使には放送作家、脚本家の小山薫堂さんにご就任い



日印産連の堆副会長

ただき、普及拡大に努めてきました。9月には5週にわたって、小山さんがパーソナリティを務めるFMヨコハマのラジオ番組『FUTURESCAPE』内で『みんな知ってる?グリーンプリンティング!』と題したコーナーを展開、GP認定制度を紹介し、広く生活者にアピールしていただきました。

GP認定制度の普及は世界共通目標とも言える、SDGsに連動していると考えており、GP認定工場への発注はサプライチェーン全体を通じたSDGs達成に寄与すると確信しています。日印産連はこうした取り組みによって地球環境への負荷低減をさらに推進していきます」。

GP環境大賞・準大賞[一般印刷の部、パッケージ印刷の部]は、GPマーク表示印刷製品を数多く発注したクライアントを表彰する賞。また、GP環境大賞を過去3回以上受賞した企業・団体には「GP環境大賞ゴールドプラス」が、GP認定制度の普及・拡大に特別な貢献が認められた企業・団体に「GP環境大賞特別賞」「GPマーク普及大賞特別賞」が贈呈されます。各賞の受賞者を以下に紹介します。

■ GP 環境大賞 [一般印刷の部]

あいおいニッセイ同和損害保険、東武鉄道、日本航空

■ GP 環境準大賞 [一般印刷の部]

済生会、ジェイアール東日本企画、全国間税会総連合会、ポスティングセンター沖縄、HOYA アイケアカンパー

■ GP 環境大賞 [パッケージ印刷の部]

あわしま堂

■ GP 環境準大賞 [パッケージ印刷の部]

国分グループ本社、竹下製菓

■ GP 環境大賞ゴールドプライズ

該当なし

■ GP 環境大賞特別賞

プレミアアンチエイジング

グラビアからは北四国グラビア印刷と巧芸社が受賞

2023GPマーク普及大賞は、2022年度にGPマーク表示印刷製品をより多く受注・製造した印刷会社を、オフセット印刷、グラビア・シール・スクリーン印刷、製本・表面加工の3部門に分けて表彰します。なお、過去3回以上GPマーク普及大賞を受賞した印刷会社で継続的な実績が認められた場合には、新設された「GPマーク普及大賞ゴールドプライズ」を贈呈することになりました。

■ GP マーク普及大賞ゴールドプライズ

NTT印刷、六三印刷

■ GP マーク普及大賞 [オフセット印刷部門]

笠間製本印刷、文伸、丸正印刷

■ GP マーク普及準大賞 [オフセット印刷部門]

あさひ高速印刷、伊藤印刷、岩岡印刷工業、大川印刷、精英堂印刷、太陽堂印刷所

■ GP マーク普及大賞 [グラビア・シール・スクリーン印刷部門]

北四国グラビア印刷

■ GP マーク普及準大賞 [グラビア・シール・スクリーン印刷部門]

巧芸社

■ GP マーク普及大賞 [製本・表面加工部門]

TAD クロスメディア

■ GP マーク普及大賞特別賞

該当なし

ウエノ、富士フィルムが GP 資機材環境大賞に

GP資機材環境大賞はGP資機材認定制度に参加し、GP資機材認定製品を登録しているメーカーの中から最も多くの認定製品を登録しているメーカーを表彰するものです。

■ GP 資機材環境大賞 [資材部門]

ウエノ



表彰状を受け取る北四国グラビア印刷の奥田拓己社長



巧芸社の田中次長

■ GP 資機材環境大賞 [機材部門]

富士フィルム

印刷を軸に人々が心を1つにする、価値のある GP 環境大賞

受賞者を代表して日本航空(株)商品・サービス開発部の岩本正治部長、六三印刷(株)の島村信彦社長、富士フィルムグラフィックソリューションズ(株)の山田周一郎社長が次のようなコメントを述べました。

日本航空 商品・サービス開発部 岩本正治部長

「我々は多くの航空燃料を使っていますが、この燃料を SAF (Sustainable Aviation Fuel、持続可能な航空燃料) を計画的に増やそうと取り組んでいます。元々、この燃



料は藻や古着など、いろいろなものを使っていましたが、最近では家庭や飲食店から排出されるてんぷら油などの廃食油を使い、航空燃料にしています。

機内サービスでは脱プラへの取り組みや、お客様へ提供する紙素材は90%以上 FSC 認証紙を使用しています。GP マークが入っているのは機内食のリーフレットで、機内誌にはまだマークを付けられていません。今回の受賞を激励と受け取り、GP マークが付いたリーフレットも一部のものとどまっているので、さらなる拡大を目指し、機内誌にも GP マークを入れられるよう印刷会社様と協力して取り組むことを宿題として持ち帰ります。この宿題の報告は、ぜひ皆さんが飛行機に乗りの際に手に取っていただき、GP マークが付いていれば『あのときの宿題は有限実行されたな』と思っていただきたいと思いますね」

六三印刷 島村信彦社長

「GP 認証制度ができただけにまず思ったのは、他社との差別化や新規開拓、競合に対して武器になる、業務発展のための道具になるということでした。しかし、GP の取り組みを進めて



いくうちに、考え方が変わりました。GP はペーパーレス信奉者からも共感を得られるものだということも知りました。そして、GP の取り組みは社員の一体感を生み出しました。社員は誇りと自信をもって GP を提供しています。最初は単なるツールとして GP を推進しようとしたのですが、今は純粋に GP を世の中に広げていきたい。皆さんとともに GP が全国に広がるようにがんばっていきたいです」

富士フィルムグラフィックソリューションズ 山田周一郎社長

「富士フィルムグループはこれまでも自社の生産における環境負荷低減に取り組んできましたが、さらに広く製品ライフサイクルすべてを対象にして、特に CO₂ 削減、資源の再活用を大きなテーマにした研究活動や、省資源効果の大きな製品を開発しようと取り組んできた次第です。



資材については CTP プレートの完全無処理化に力を入れています。生産現場の環境負荷を圧倒的に下げる製品として導入を加速すべく、まい進しているところです。

機材では印刷物の小ロット多品種化が進む中で、

資源のロス削減にも貢献するデジタルプレスの開発や普及に動んでいます。特に、オフセットライクな品質を出せるデジタルプレスをフラッグシップにラインアップを取り揃え、紹介していきます。

今日の受賞を起点に、これまで以上にお客様とのコミュニケーションを大切にすると同時に、品質安定性、環境性を高いレベルで実現できる製品やサービスの提供にご期待ください」

小山薫堂 GPPR 大使

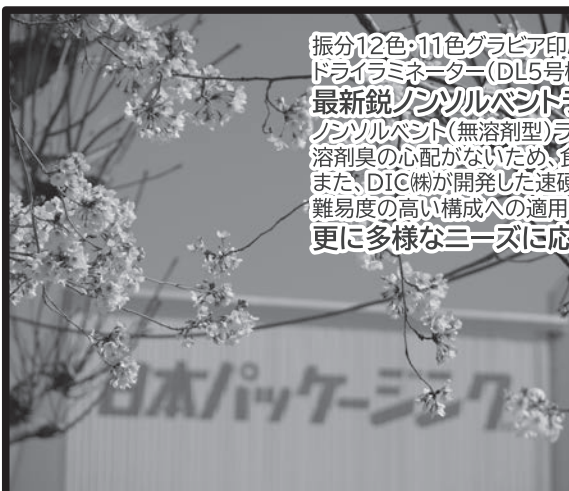
「GPPR大使に就任して7年が経ちました。年を重ねるごとに、印刷業界の仕組みや印刷物を使う方々の想いなどを理解できるようになってきました。今年ラジオ番組にGPの枠を作り、ゲストを迎えお話をしました。リスナーは印刷の話を開

いて興味を持ってもらえるかなと思いました。が、予想以上の大きな反響があり、これまで印刷のことを考えたことのなかった一般の人たちにも改めて尊い産業だということを感じてもらえました。

GP環境大賞は、印刷を発注するクライアントとそれを提供している事業者、さらに事業者資機材を提供しているメーカーと、3者の立場を同時に表彰する他にはない賞です。印刷を軸にして人々が心を1つにする、価値のある賞だと思います」



振分12色・11色グラビア印刷機(印刷7号機・印刷8号機)、
ドライラミネーター(DL5号機)に引き続き、
最新鋭ノンソルベントラミネーター(NS6号機)を増設稼働致しました。
ノンソルベント(無溶剤型)ラミネーターは、高い経済性と環境適性に優れており、
溶剤臭の心配がないため、食品包装などに適しています。
また、DIC株が開発した速硬化型無溶剤接着剤“DUALAM™”に対応し、
難易度の高い構成への適用も視野に入れた仕様としています。
更に多様なニーズに応えられる「日本一の協力会社」を目指してまいります。



ISO9001: 2015 認証取得
グリーンプリンティング認定工場
軟包装衛生協議会認定工場 正会員



■グラビア印刷 ■ドライ・ノンソルラミネート

日本パッケージング株式会社

本社・工場 〒340-0121 埼玉県幸手市上吉羽2100-30
TEL:0480-48-2620 <http://www.nippake.com/>

組合員・単組の近況

九州グラビア協同組合青年部 研修旅行

大日精化・坂東製造事業所見学 JAPAN PACK 2023視察へ

九州グラビア協同組合青年部（母里圭太郎部長）は、2023年10月4日（水）～6日（金）まで、工場見学および展示会視察を目的とした研修旅行を実施しました。途中参加のメンバーも含め、延べ12名が九州を飛び出し、知見を広める良い機会となりました。

一行は埼玉県久喜市に前泊し、10月5日（木）午前10時から大日精化工業㈱「坂東製造事業所」を訪問しました。粟屋副事業所長から歓迎のご挨拶をいただいた後、山本生産技術部長から事業所概要および製造工程の説明がありました。坂東製造事業所は、2021年8月稼働、71200m²の広大な敷地を有し、グラビアインキ・フレキシインキ・

コーティング剤の需要拡大への対応として、省力化を含めた増能力とともに、業務の効率化を図った基幹工場です。

試験室でCI型フレキシ機やグラビア印刷機を見学した後、原材料（屋外タンク）から工程の流れに沿って説明をいただき（仕込・攪拌・分散・調整・検査・充填）、最後に出荷棟（移動ラック式）を見せていただきました。

スケールの大きさと、安全と機能・効率の高さに感銘を受け、人とモノの動線、随所にミスや危険の可能性を減らす工夫があり、学びの多い見学でした。工場の方々の温かい対応にも感謝いたします。ありがとうございました。

翌6日（金）はJAPAN PACK 2023（東京ビッグサイト）視察後、帰途に着きました。

慣れない鉄道の乗り換えに右往左往し、九州の味の居酒屋を求めて右往左往し、久喜の町のスナックで「うきは市」のママと出会う、濃ゆい3日間でした。



以下に、今回の研修旅行参加者からの感想を紹介いたします。

● 坂東製造事業所

- インキの製造過程を、今まで見たことがなかったので良い経験、勉強をすることができました。中でも、効率、事故、様々なことを想定されて建てられた工場の素晴らしさに圧倒されました。
- 今後の大日の主力工場となる坂東工場は、動線もしっかりしており、フレクソやグラビアのテスト機が設置してある他、今までインキの充填は手作業であったものを自動化したり、非常に信用のおける工場だと思われました。最大の印象は、とにかくデカイ、の一言です。出荷・在庫等は、アウトソーシングしてあったことも、費用の削減等、色々と考えられた素晴らしい工場の見学をさせてもらったと、感じました。
- インキの開発・供給を高いレベルで実現し、新ブランドメッセージ「彩りの、その先へ。」を体現できる工場という印象を受けました。

● 旅行全般

- やはり九州から関東へは、移動時間含め大変疲れたのが本音です。九州の山猿たちに言わせれば、関東市場の大きさに圧倒されるばかりで、関東へのあこがれがより一層高まった今回の研修となり、有意義で大変勉強になりました。また機会があれば、是非参加したいと考えます。
- 前任と担当交代後、初めて参加させていただいた青年部の研修旅行となりました。最初はかなり緊張して、集合場所におりましたが、部の方はみな声をかけて下さりました。青年部のコミュニケーションは、組合の互助発展のために有効に機能していると思います。最新の機械を目にした時の熱い視線や、省人化や環境対応への展示について強い関心を持たれ、多くの質問をされていることが強く印象に残っております。

● JAPAN PACK 2023

- 業態、関わり方は違えども、それぞれが考える脱炭素（環境対応）への取り組みやそれに対応する製品が年々拡大し充実してきていることを強く感じました。また、ポットライフの延長を狙う中で生じる改ざん防止を意識した製品も同様に、法令遵守の意識（労働安全衛生や省力省人、化学物質管理など）が年々高まってきていると感じました。
- 九州では見ることができない、機械や商材をじかに見学でき、不明な点は直接、質問できたのが良かったです。グラビア関係やその他仕入商材の最新トレンド情報を得ることができ、大変有意義でした。
- グラビア印刷関連の機械もありましたが、主に私どもが資材を供給した後の食品工場で使用される機械の方が、多かったように思われます。ただ、何らかの軟包装に係るヒントが、有りましたので、今後の研究開発に生かせるかと感じました。



大日精化工業株式会社坂東製造事業所



説明を受ける参加者

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合青年部

レゾナック川崎事業所 KPR 視察報告

報告者：関東グラビア協同組合青年部
大伸化学(株) 吉田 巧

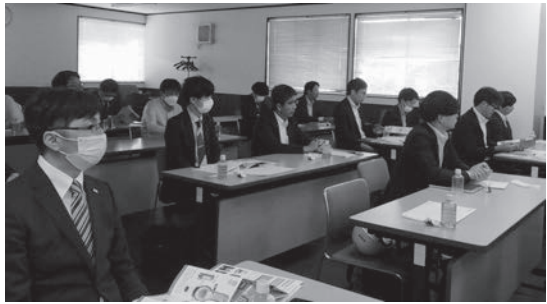
2023年10月6日（金）、関東グラビア協同組合青年部29名にて、(株)レゾナック川崎事業所の使用済みプラスチックをケミカルリサイクルして、アンモニアと炭酸製品を製造する工場を視察しました。また、行き道中のバス車内では全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長より適切な価格交渉・価格転嫁に向けた取り組みに関してご高説を承り、青年部員の背中を押していただきました。

(株)レゾナック川崎事業所は1930年に昭和肥料(株)川崎工場として発足し、生産しているアンモニアは時代の変化に応じて石炭→石油→天然ガスから使用済みプラスチックと転換しており、世界で唯一の商業規模でのプラスチックのケミカルリサイクルプラントとなります。各家庭から排出され

分別されたプラスチックごみを各自治体で回収し、主に首都圏の自治体より運搬される使用済みプラスチックを毎日24時間稼働で200トン/日、年間では約6万トン処理しています。大きな特徴として、リサイクル工程では化石燃料を使用せず、プラスチックの熱量でガス化までを行っているゼロエミッション工場となっており、昨今の脱炭素社会に向けて動き出した中で注目を浴びています。

実際に各自治体から回収した使用済みプラスチックは粉碎→異物除去→成形→低温ガス化炉→高温ガス化炉を経て水素と二酸化炭素になり、水素はアンモニアに、二酸化炭素は炭酸製品になる流れを視察させていただきました。出来上がったアンモニアは我々の身近な繊維原料、化学品、高純度アンモニアとして半導体分野でも採用されており、炭酸製品は飲料メーカーへの炭酸としての供





給、ドライアイスは宅配運送会社に採用されており、足元では国内メーカーからの炭酸供給では需要に足りておらず、使用済みプラスチックからリサイクルされたグリーンな炭酸ということもあり、多くの引き合いをいただいているとのことでした。

今回の視察では、使用済みプラスチックリサイクルに20年以上前より取り組み、排出元からリサイクル事業者→再利用先までの仕組みが出来上がっている印象を強く感じ取り、新聞紙面やWEB上だけでは分からない部分を勉強させていただき

ました。また、グラビア印刷業界から排出される印刷済みの刷りヤレなども別事業者で破碎・混合・成形を経てRPF（固形燃料）となり、一部はレゾナック川崎事業所に持ち込まれ、ケミカルリサイクルされています。現在、素材メーカー様、インキメーカー様など様々な視点から廃プラスチックを利用したリサイクルに取り組みられておりますが、青年部としても環境に対する意識や知見を高めて発信していけるような活動をして参ります。

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合・青年部

第17回経営セミナー報告

報告者：関西グラビア協同組合青年部
エバーコート(株) 三島 徹

関西グラビア協同組合（竹下晋司理事長）・同青年部（森脇拓也部長）主催の第17回経営セミナーが、2023年10月11日（水）午後6時～7時30分まで、参加者60名にてANAクラウンプラザホテルで開催されました。

講師にMBSでアナウンサーとしてご活躍の上泉雄一様をお招きし、「伝えるチカラ～あなたの想いは届いていますか？～」というテーマでお話いただきました。

まず、伝えるにあたって印象に残るプ



MBSの上泉雄一アナウンサー

レゼンとは何か？ どこに注意すべきかをお話いただきました。

- ・音が聞こえる
- ・情景が見える
- ・匂いがするプレゼン

話している内容が具体的になっていること。

- ・生き生きしている
- ・試してみたいくなる
- ・何だか楽しそう

心を動かす話し方を心掛けることが重要である。

また、具体的に心を動かすプレゼンのために日々



の事柄に興味を持ち、どのようにしたら伝わるかをメモ等に記しておくと話したいポイントが整理されていく。

アナウンサーならではの聞きやすい話し方もご教授いただきました。

- ・「ゆっくり」「はっきり」「大きな声で」
- ・文は短く「。」で終わる
- ・難しい言葉ではなく、なるべく簡単な言葉で話す
- ・人に話す時は流暢に話すことが目的ではなく、相手に伝えることが目的だということを常に意識する

最後に、プレゼンする上での心構えについてご教授いただきました。

- ・話したいことを最低3回は練習する

- ・自分の立ち居振る舞いや話し方を客観的に見る
- ・プレゼンが主役ではない。主役は「商品」である
- ・「いい話」が良いのではなく「共感できる話」でないといけない

1時間半という短い時間ではありましたが、伝えることのプロフェッショナルであるアナウンサーから、伝え方のポイントや心構えを聞いたことは大変貴重な機会でした。

すぐに実践できるものばかりだったので、今後の業務に大いに役立つと思います。

最後に、お忙しい中、講師を引き受けて下さった上泉様、色々な手配をしていただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。



質疑応答の様子



挨拶する竹下晋司理事長



閉会の挨拶は堀川青年部副部長

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合 定例理事会報告

軟包装「ソフトパッケージ」が果たす役割について社会浸透を 2024年の全グラ総会は6月に九州でリアル開催

関東グラビア協同組合は2023年10月12日（木）午後3時より5時5分まで定例理事会を開催した。当日は、吉原宗彦理事長（東京加工紙㈱）、安永研二副理事長（東包印刷㈱）、山下雅稔副理事長（㈱巧芸社）、川田雄治理事（トーヨー加工㈱）、千田 敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）、村野 剛理事（信和産業㈱）、諸石武士理事（日本パッケージング㈱）、小林直人理事（八潮化学㈱）、福島 潤理事（㈱東和プロセス）、柴田里香理事（弁護士）、田口 薫最高顧問理事（大日本パッケージ㈱）、袖山高明専務理事、岸本一郎監事（㈱カナオカ）の13名が組合事務所から、橋本 章理事（橋本セロファン印刷㈱）、佐藤裕芳監事（㈱千代田グラビヤ）の2名がZoom参加した。

冒頭、10月5日に亡くなられた村田英雄前専務理事に哀悼の意を表し、黙祷を捧げた後、吉原理事長が最近の景況に触れ、「消費支出が良くない。商品価格を値上げした小売店は、売上が低迷している。このため当業界内ではラインを止めているという話も聞かれる。一方、11月からのインキの値上げを受け、年末に向けて価格転嫁をしていかねばならない」と結び、次のような議題について議論した。

1. 関グラ協組2023年度上半期決算

総会予算は多少オーバーしたが、その他はほぼ予算通りとの報告があった。

2. 11月9日開催の全グラ定例理事会について 3. 2024年の関連スケジュールについて

- * 日本印刷産業連合会の新年賀詞交換会は、1月10日（水）にホテルオークラ東京にて開催
- * 全国グラビア協同組合連合会・関東プラスチック印刷協組との合同理事会・新年賀詞交換会は、1月12日（金）にホテルニューオータニ東京で開催

* 全国グラビア協同組合連合会の総会・理事会は、6月7日（金）九州にて開催

4. 全グラ条件付き決議「監督者・事務局員並びに大阪岬評価試験会場報酬及び運用規定（案）」の経過報告

5. 軟包装の呼び名「ソフトパッケージ」と内容浸透の件

6. 日産連 GP 表彰式とトークショー

10月18日（水）に開催される2023GP環境大賞等表彰式／トークショーについての告知がなされた。

7. その他

- * 価格交渉促進月間（2023年3月）フォローアップ調査結果
- * 自主行動計画改訂&徹底プラン
- * 北海道グラビア印刷協同組合理事長ご尊父逝去
- * 11月29日に開催されるグラビア印刷技術研究会の第14回ミニシンポジウムの告知
- * ナフサ価格の推移

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

工場見学会報告

報告者：関西グラビア協同組合青年部
淀川加工印刷(株) 有田英明

関西グラビア協同組合青年部（森脇拓也部長）では、(株)商工組合中央金庫様からご紹介いただき、2023年10月3日（火）、兵庫県高砂市にある丸山印刷(株)様本社工場を青年部会員20名で見学させていただきました。

丸山印刷(株)は創業109年の歴史ある企業で、カレンダー、本、パンフレット、チラシ、投票用紙、ラベルなどオフセット印刷が主体の企業でした。通路の壁には昔の印刷に使った版が飾られ石や木製の版もあり、会社の発展の歴史が一目瞭然でした。

見学させていただきました工場は4000坪もあり、50年前に移転した当時は、周りは田んぼばかりだったとのこと、この地域の開拓者とも言える企業と感じました。

また、商品展示室では、子供が描いた絵をデジタル印刷機でアルバムや絵本に仕上げた製品を見せていただきました。他にも高級なお酒のラベルなども飾られており、デジタル印刷の製品が身近な物として様々なニーズに対応されていることを知りました。

製版工程、印刷工程、製本工程は、工程の順番通りに一方通行となっており、無駄な動きがありませんでした。最新の機械では、自動化・生産スピード・UV インキによる乾燥時間の削減により、



時間当たり最大の付加価値を生み出す工夫がされていると感じました。また工場内は、整理整頓が行き渡っており、作業服も大変綺麗で5Sが徹底されていると感じました。

他にも、オンデマンド両面カラーなど小ロット短納期と人手不足の問題に対して、改善に取り組まれていると感じました。勤務体制も3交代から2交代+残業に変更され、生産キャパを維持され

ていました。設備や生産体制の面から対応されているのを見て、私ももっと様々な角度から物事を見て社内改善に取り組もうと強く思いました。

最後になりましたが、今回大変お世話になりました総務部の上山様、取締役製造部の北野様をはじめとする丸山印刷様に感謝するとともに、厚く御礼申し上げます。

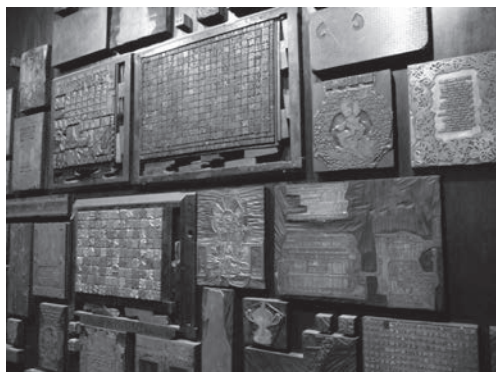
SNAPSHOTS



説明を受ける参加者



創業当初の版の展示



木版

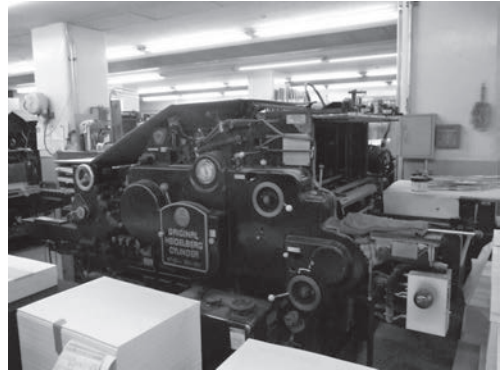


石版

SNAPSHOTS



世界最高クラスの最新鋭機



HEIDELBERG 社製 全自動シリンダー凸版型抜き機



見学中の様子

組合員・単組の近況

北陸グラビア協同組合

特別懇話会を開催

北陸グラビア協同組合（賀谷眞尚理事長）は、2023年10月17日（火）に、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長をお招きした特別懇話会を開催しました。当日は、組合員・賛助会員15名が参加し、全国のグラビア業界の現状や動向、課題などについての田口会長の講話に真剣に耳を傾けていました。その後、懇親会を開催し、無事終了しました。



Information

大日精化工業、新ブランドメッセージ「彩りの、その先へ。」を発表

大日精化工業(株)は、創業92周年の創立記念日を期に同社グループの新ブランドメッセージ「彩りの、その先へ。」を発表、これにあわせて次期

中期経営計画の策定を始め、人材戦略、DXなどに鋭意取り組んでいくことを表明した。

彩りの、その先へ。
今日の未知は、未来への道

北海サンコーの若狭吉範氏が逝去 北海道グラビア印刷協組理事長などを歴任

(株)北海サンコー（若狭博徳社長、北海道札幌市手稲区稲穂2条3丁目1-5）の創業者であり会長であり、全国グラビア協同組合連合会の理事、北海道グラビア印刷協同組合の理事長を務められた若狭吉範氏が、2023年8月29日（火）午後3時30分に逝去されました。享年90。10月18日（水）午後3時より、北海斎場（札幌市豊平区豊平4条3丁目2-5）において社葬が執り行われました。謹んでお悔やみ申し上げます。

ここでは、若狭吉範氏の生前のご功績を偲び、1998年の「印刷功労賞」受賞の際に掲載された「全グラ情報」（1998年10月号）の記事を再掲します。

全国グラビア

日印産連

'98印刷月間記念式典で表彰

(株)日本印刷産業連合会（藤田弘道会長）は、9月17日東京千代田区のホテルニューオータニで「'98印刷月間」の主行事である記念講演会、記念式典、懇親会を開催した。記念講演は講師西田善夫氏（NHK解説委員）による「スポーツの感動」をテーマとした講演、記念式典では印刷功労賞11名、印刷振興賞18名が表彰された。

〔印刷功労賞〕

若狭 吉範 氏

昭和9年3月28日生

(株)北海サンコー

代表取締役

全国グラビア協同組合連

合会 理事



〔表彰理由〕

昭和34年(株)サンコーへ入社以降、昭和47年(株)北海サンコーを設立し今日まで、通算36年有余に亘り道内におけるグラビア包装材の開拓と新技術に挑戦し、グラビア印刷の進展に尽力した。また、組合の運営にあたっては昭和54年北海道グラビア印刷協組の副理事長、平成5年理事長に就任。以降平成9年3月まで18年の永きに亘り、組合の地位向上に果たした功績は大である。

「全グラ情報」1998年10月号より

目立ってしましますが、 実力もすごいのです

「薄く、軽く、柔らかい」が、私たちが皆さんにお届けしている袋の特徴で、「ソフトパッケージ（＝軟包装）」と呼ばれています。一見頼りなさそうな感じを思い浮かべられるかも知れませんが、実はとんでもない優れモノなのです。

●「閉じる」

食品など中身を入れた後、瞬時に**密封**する機能を持っています。

→「入れる」だけのレジ袋との大きな違いです。

●「届ける」

食品工場から配送センターの倉庫、コンビニやスーパーなどの販売店へ運送する際に、あるいは皆さんがお持ち帰りの際に、中身がもれたり流れ出たりすることはありません。棚や冷蔵庫などの収納でも同じで、柔らかいために狭いスペースにも収まります。

●「保つ」

『湿気る』 → お煎餅が湿気てしまつては美味しくありませんね。

『腐る』『酸化する』『かびる』 → 食品がこれでは美味しくないところか、食べることもできません。

「ソフトパッケージ」はこれらを防止する機能を持っていますので、安全・安心にお使いいただけます。

また、中身の香りや、外の異臭・悪臭などもある程度遮断することもできます。何故、そんなことができるのかと言いますと、1ミリメートルの100分の1から数10分の1程度の極薄の様々な機能性プラスチックフィルムや金属箔、紙など他素材との複合化によって出来ているからです。一見、1枚のペラペラのフィルムに見えがちですが、実はそうではないのです。

そして、忘れてはいけないとても重要な役割があります。

●「伝える」

グラビアという印刷方式により、皆さんの「健康」「衛生」を支えるためにお伝えしなければならない情報を表現できるとともに、中身のPRや、カラー印刷を用いたキレイで可愛いデザインを施すことも可能です。

いかがですか。「賞味期限」を守りつつ、フードロスの削減にも役立ち、安心してお使いいただけるこの優れモノ、「ソフトパッケージ」の価値を改めてお考えいただけませんか。

でも、いったん袋を開けてしまうと密封状態ではなくなりますので、チャック（またはジッパー）付きの袋をお使いの場合でも、また、輪ゴムなどで開封部を止めて頂いたとしても、本来の機能は既に損なわれていますので、出来る限り早めにお召し上がり下さいね。

軟包装価値向上委員会 配布資料Ver02 2023年7月6日改訂